

平成28年度 事業報告

社会福祉法人やまなみ会

阿蘇くんわの里

阿蘇くんわの里事業報告 構成

I、	はじめに	・・・・・・・・・・	2
II、	全体状況	・・・・・・・・・・	3
	1、利用者状況		
	2、職員状況		
	3、施設整備状況		
	4、実習受入		
	5、行事		
III、	部門別活動状況	・・・・・・・・・・	4
	1、生活介護事業		
	施設入所支援		
	短期入所支援		
	2、生活訓練事業		
	3、就労移行支援事業		
	就労継続支援B型		
	4、医務部門		
	5、給食部門		
	6、防災関係		

阿蘇くんわの里事業報告書

I、はじめに

阿蘇くんわの里は、重度化・加齢による能力低下等の課題に向けた支援体制の強化のため、日中事業の生活介護、自立訓練、就労継続B型、就労移行支援の各部署の役割を明確にし、職員育成はもちろんの事、「体制づくり」を目的とし、年間通して職員全体で活動を進めることにより職員の資質の向上や支援体制の強化に努めた。各事業において法人理念「共に支え、共に生きる」に基づき利用者主体・個人の尊厳を基本とし多様化するニーズを的確にとらえた福祉サービスの提供に取り組んだ。

4月に起こった熊本地震時には自衛隊による支援で施設運営が助けられ、利用者の心身安定に大きく貢献して頂いた。また、震災、噴火、大雨等の自然災害に見舞われその教訓として阿蘇くんわの里が黒川地区の拠点としての役割が大きいことが分かった。このことから施設間の連携体制の在り方(就業規則第15条に応援を追記)、拠点としての在り方(黒川地区の保存食の確保及び提供)、緊急時の利用者処遇(24時間体制)、生活棟の電源確保等が今後の課題である。

阿蘇くんわの里の5事業(生活介護・生活訓練・就労継続支援B型・就労移行・施設入所)の定員から現員を考えると生活介護と就労継続支援B型においては定員を超える利用者が所属している。一方で就労移行と生活訓練は定員割れをしている。今後は、新規利用者に対しての受入体制を整えると共に事業間の連携を図る必要がある。

生活介護事業においては、昨年度に定員を30名に変更したが、介護・入所のニーズが多くあり、新規利用者が2名増え、現員39名となっている。来年度、さらに定員増の申請を行っていく。

就労継続支援事業B型では、熊本地震の影響は大きく馬油製品の製造・販売にも大きく影響した。その後、TV取材や各方面からの支援により売上げたものの前年度まで持ち直すことはできなかった。作業ができなかった時期に営業活動を強化し、下請け班及び実習班の拡充に努めたが、目標平均工賃額26,000円を達成することができなかった。(平均工賃23,706円：昨年度23,461円)

就労移行支援事業では、現状の雇用環境は厳しい状況にあるが、当施設の就労支援への取り組みや障害者の理解を頂き、実習を通じて社会的マナーの習得及び技術の向上取り組んだが、就職までは至らなかった。今後は更に企業の開拓と企業に受け入れて頂ける人材育成の取り組みを強化し障害者の就職活動支援に力を入れていきたい。

Ⅱ、全体状況

●利用者状況（平成 29 年 3 月末日現在）

利用者状況については、利用者確保のため、支援学校・病院・家庭からの体験利用を積極的にいき、利用者確保に取り組んだ。特に精神障がいとの重複障害の方の生活介護事業及び入所支援事業への利用ニーズが多く、29 年度は、介護事業定員を 40 名に増員予定である。利用される方及びそれぞれの事業の方向性を明確にし、定員割れの解消、業務の遂行を行っていく。そのためには、それぞれの事業を担当する職員は事業の目的把握を周知徹底し業務を遂行していく。

	サービスの種類	定員	27 年度 利用登録者数	28 年度 利用登録者数	増減
日 中 活 動 系	生活介護	30 名	38 名	39 名	1 名↑
	自立訓練（生活訓練）	10 名	2 名	1 名	1 名↓
	就労継続支援（B型）	29 名	30 名	33 名	2 名↑
	就労移行支援	10 名	3 名	2 名	1 名↓
居 住 系	施設入所支援	40 名	35 名	36 名	1 名↑
	短期入所支援	1 名	3 名	4 名	1 名↑

●職員の状況

① 会議の開催

全職員に対する施設の基本方針及び、重要案件の確認、周知徹底について部署代表者による運営会議・全職員による職員会議を月 1 回開催。各部署により各支援会議、給食運営会議等をその都度開催した。

② 職員研修

1. 施設内外への積極的参加を促し、研修結果を職員会議等の場において報告し、参加できなかった職員への情報提供及び周知徹底を行った。また、福祉の研修ばかりでなく一般企業の研修参加を取り入れた。
2. 新たな職員を対象に福祉サービスに必要な支援知識及び障害者支援に対する人権問題、虐待等を含め利用者への対応をあり方の研修を実施し、まずは生活介護及び入所支援を経験し、障害者の特性の理解と支援の在り方を知った上でその後他事業や他施設の研修を行い、配属を行った。
3. 職員の資格取得についてはサービス管理責任者 3名・社会福祉主事任用資格 2名の支援を行った。

●施設整備等の状況

- ・地震による生活棟建物、第二工場の修繕工事
- ・今年度予定していた風呂場の改修工事は、地震の影響で着手できなかった為、次年度に繰り越す。
- ・利用者の高齢化、障害の重度化を含めた今後を見据えて、利便性・安全対策として実施していく。

●実習受入状況

阿蘇中央高校 職場体験実習	1名
小国支援学校 職場体験実習	1名
阿蘇中学校 職場体験実習	2名
尚綱大学短期大学部幼児教育学科 施設実習	2名

●28年度実施行事

日付		行事	参加利用者	場所
4月	1日	新年度体制説明会	全利用者	第2工場
10月	29日	秋祭り	全利用者	くんわの里 グラウンド
11月	10日	ペタンク大会	希望利用者	えがお健康スタジアム
12月	14日 15日	利用者旅行	生活介護利用者 生活訓練利用者	天草方面
	17日	餅つき大会	全利用者	施設内
1月	7日	どんどや	全利用者	くんわの里 グラウンド
3月	30日 31日	利用者旅行	B型利用者 就労移行利用者	大分方面

Ⅲ、部門別活動状況

●施設入所支援報告（定員40名）

●短期入所（定員1名）

●生活介護事業報告（定員30名）

【サービスの取り組みと課題点】

施設入所支援と合わせて、生活介護事業の中で入浴や整容、洗濯や居室清掃といった生活支援に加え、看護師2名による細かな健康管理や急な体調変化による病院受診、利用者の状態にあわせた食事やカロリー管理、成人病予防メニューといった食事支援など全利用者にサービスが行き届くよう支援を進めていった。この度は大きな災害もあり、利用者の方の情緒の安定及び夜間の緊急時の対応・対策の不十分さを痛感し、今後の訓練はもちろんの事体制構築の必要性・重要性を感じた。また、今年度は2名の新規利用者を受け入れ、本人や家族のニーズを出来る限り受け入れ、新しい生活に少しでも慣れるようこまめな声掛けを行ってきた。また、課題のあった利用者に対して支援会議を行い、対応や支援の方向の統一性を図った。来年度は、加齢による生活変化や介護負担の増大、重度者の入所、年齢別による支援の在り方を組み込み、体制の見直し、確立を行っていききたい。

今年度も一泊二日の利用者旅行を実施することができた。トイレ休憩や途中乗車等の打ち合わせがうまくできておらず食事時間にばらつきができてしまった。多くの課題点が見えた旅行だったが、利用者にとっては良い思い出ができたと思う。この度の反省点・課題点を生かし今後のレクレーション等につなげていきたい。

●生活訓練事業（定員 10 名）

【サービスの取り組みと課題点】

継続利用の利用者は、支給期間終了を機会に就労継続支援 B 型事業を目指し、プログラムを作業能力や集中力の向上にポイントを絞り、試行錯誤しながら作業の提供を行い、成果が出てきており、その上、利用者本人の自信にもつながってきている。また、情緒の安定を図る為、日中事業以外の事業との連携を築き、情報の共有化に努めた。精神面の不安定時には時間をかけて本人と話をすることで作業効率の向上につなげることができた。今後も目標達成のために就労継続支援 B 型に必要な訓練と作業の実施を行っていききたい。

●就労継続支援 B 型事業報告（定員 29 名）

●就労移行支援事業報告（定員 10 名）

【サービスの取り組みと課題点】

就労移行や就労継続支援 B 型はこの度の熊本地震で大きく影響を受け、実習先の休業や馬油製品取引先の閉店、休業等があり売上を確保することができなかった。しかし様々な支援団体や企業からの応援で TV 取材や販売会への参加要請があり、売上を確保してきたが前年度までは上げることができなかった。幸い馬油製造機械等の破損は少なかったものの材料の仕入れができなくなったが、新規の仕入先を獲得することで製造できるようになった。また、下請けはほとんどの企業が材料の提供が止まり作業のない状態だった為、稼動している企業に作業提供の依頼を行っていった。その結果、単発的な作業や定期的な作業等を獲得することができた。現在は、休業していた企業も再開しつつあり少しずつではあるものの材料の提供が再開されている。

商品営業に関しても当時は阿蘇方面の集客が見込めないと判断し熊本市内への営業をしていくように変えていった。結果、紹介等を含め 20 店舗ほど新規に獲得することができた。

今後は、作業に参加する利用者の方も分かる作業標準書を作成し、作業内容の周知を図り、作業効率や意識の向上に努め、利用者の更なる工賃向上を図っていく。

●医務事業報告

平成 28 年度年間医務計画に基づき、体力の増進及び衛生管理の意識向上を図り、早期の疾病予防、感染予防の推進を図り、心身の健康づくりを実施した。特に 4 月の熊本地震では停電・断水の中、感染の可能性が非常に高く考えられた為、特に手洗いの周知徹底を図った。皮膚疾患を患っておられる利用者に関しては、ウェットタオルを利用した清拭を実施。また、4/20 には協力医療機関でもある市原先生による往診をしていただき入所利用者全員が受診し、精神面の安定を図ることができた。内服に関しては、電話にて状態報告後、処方して頂くという形で薬の確保もでき、その結果大きな怪我・事故の発生もなく過ごすことができた。

10 月頃より冬季におけるインフルエンザ対策を看護師による周知徹底を図ると共に、感染予防マニュアルの実行と予防接種を行った。

高齢化も進み非常時に備えて AED を設置。

『各医療機関への定期受診(1 ヶ月～2 ヶ月毎)』

	病院名
精神科	<ul style="list-style-type: none"> ・阿蘇やまなみ HP (1・2 ヶ月毎) ・菊池有働 HP (1 ヶ月毎) ・ピネル記念 HP (1・2 ヶ月毎) ・国立菊池 HP (1 ヶ月毎)

内科・外科	<ul style="list-style-type: none"> ・市原外科HP（1ヶ月毎） ・阿蘇医療センター（1・2ヶ月毎） ・熊本セントラルHP（2ヶ月毎） ※冬季のみ市原外科（1ヶ月） ・阿蘇温泉HP（1ヶ月毎）
その他	<ul style="list-style-type: none"> ・古嶋眼科（1ヶ月毎） ・坂梨ハートクリニック（1週間3回） ・きずな歯科（1週間1回）

『身体測定』

毎月実施(身長・体重・血圧・脈拍 ※但し身長は4月 年1回)

『健康診断』

- ・定期健康診断（年2回） 早期の疾病発見に努めた。

9月・3月

検診の結果異常の認められた者は、速やかに精密検査及び再検査を実施。

- ・歯科検診(年1回)～年度末3月に実施

ボランティア等によるブラッシング指導の実施。

訪問歯科診療を実施し、その都度口腔ケア診療を受けた。

検診の結果治療の必要が認められた者は、速やかに治療処置を実施。

『感染予防』

施設内に手指消毒を設置<ビオシラビング>し感染予防（ノロウイルス、インフルエンザ）に努めた。

- ・オゾン除菌・脱臭機にて園内の消毒の実施(毎月1回)
- 6月～食中毒に関するマニュアルの見直し・研修会の実施。
- 7月～熱中症予防に関するマニュアルの見直し・研修会の実施。
- 11月～インフルエンザ・ノロウイルス予防に関するマニュアルの見直し・研修会の実施
 - ・インフルエンザ予防接種(職員・利用者11月上旬)
 - ・うがい、手洗い、マスク使用の遂行(職員・利用者11月～3月迄)

●給食事業報告書

平成28年度の給食運営計画を基に行事食・嗜好調査等を実施し、利用者の満足度向上に努めた。特に上半期では熊本地震により停電及び断水に見舞われ利用者の方に満足のいく食事の提供ができなかった。G.Wには断水が緩和され少しずつではあったが、通常の食事の提供ができるようになってきた。また、個別対応は食札を設け腎臓食、エネルギー制限、刻み等を実施し、ゆめごはんを採用するなどその他細かな対応を利用者の状況や特性に応じて業務を行った。衛生面については、毎月の検便と、定期的な拭き取り検査の実施を行った。

○ 個別対応（延べ数）

- 1) 腎臓食（入所3名）・高血圧食（入所2名）・糖尿食（入所1名）
低たんぱくご飯や補助食として高カロリーゼリーを取り入れ、低たんぱく・高カロリー・塩分5g程度の食事を提供している。
- 2) エネルギー制限、少なめ対応（入所18名、通所3名）
利用者によって主食・主菜を小盛りにて提供。

- 3) 刻み・一口大 (入所 12 名、通所 3 名)
咀嚼状況に応じて対応。魚をほぐし、肉を刻み、野菜は茹でて食べやすくして提供。
- 4) お粥 (入所 5 名)
通常 2 名だが、食欲不振時や本人の希望等でどなたにでも提供している。
- 5) 塩分控えめ (入所 6 名)
医師の指示により、塩分控えめの食事を提供している。汁物は具のみ、麺類のスープは少量、漬物類は控えることを徹底している。
- 6) アレルギー (通所 1 名)
- 7) 禁止食 (入所 3 名、通所 1 名)
ブロッコリー、納豆などビタミンK及びクロレラの禁止
その他食事の対応以外にも、
- ① 箸が滑ってしまう方には割り箸
 - ② 麺をうまく箸で食べられない方にはフォークやスプーン
 - ③ 風邪で食欲がない方への対応食

○給食年間実施

月	日	行事食		会議
4	1	くんわの里設立記念メニュー		
5	2	端午の節句メニュー		
	4	バーベキュー		
	25	セレクトメニュー (ミニたい焼き・わらび餅)		
6			22	第 1 回嗜好調査 第 1 回給食委員会
7	7	七夕メニュー (三色そうめん・七夕ゼリー)		
	26	土用丑の日メニュー (うな井)		
8	13	お盆メニュー (バイキング)		
9	3	十五夜メニュー (月見そば・白玉団子)		
	14	セレクトメニュー (豆腐ハンバーグ・和風ハンバーグ)		
10	29	秋祭り	5	第 2 回給食委員会
11	2	セレクトメニュー (ちゃんぽん・皿うどん)		
12	17	もちつき会	8	第 3 回給食委員会
	22	冬至メニュー (南瓜の煮物・柚子の和え物)		第 2 回嗜好調査
	24	クリスマスメニュー (ピラフ・チキンなど) セレクトメニュー (チョコ・いちご・キャラメル・チーズケーキ)		
	31	年越しそば・盛り合わせ		
	1	おせち		
1	2	握り寿司		
	6	七草粥		
	7	どんどこや (餅・ぜんざい・焼肉・豚汁・おにぎり等)		
2	3	節分メニュー (恵方巻き・節分豆)		
3	3	ひな祭りメニュー (お弁当)		第 4 回給食委員会

●防災訓練報告

この度熊本地震が起こり避難訓練の必要性及び重要性を再確認すると共に利用者の高齢化、障害の重度化が進む中、利用者の方や職員の火災や水害等の災害時の対応能力・知識の向上を身に付け、管理体制組織の各職員への役割の周知徹底を行って訓練を実施した。

【訓練の実施】

第1回目 日時 平成28年6月14日(水) 13:30～ 所要時間4分10秒 晴れ

参加者 利用者：82名 職員：10名

- ① 夜間2名体制時に喫煙所から火災発生を想定
- ② 利用者への避難誘導と通報訓練について訓練を行う

全体の反省

- 職員同士で声掛けを行い、出火場所と避難経路の誘導ができた。
- 夜間を想定し職員2名体制で行ったが、他の職員も避難誘導・初期消火の状況を把握でき、実際に起こった場面に備えることができたと考えられる。
- 消火訓練ではG.Hでの火災も想定し利用者に消火器を使った訓練を実施した。

第2回目 日時 平成29年3月28日(火) 13:00～ 所要時間3分52秒 晴れ

参加者 利用者：70名 職員：10名

- ① 夜間2名体制とし喫煙所からの火災を想定。
- ② 利用者への避難誘導と通報訓練について訓練を行う。
- ③ 消火器3本を使用しての消火訓練(利用者2名・職員1名)
- ④ 緊急連絡網の変更により連絡が機能するか否かの訓練を行う。
(20時に実施)

全体の反省

- 想定出火場所が消防隊員の提案により変更となり、職員が混乱してしまった。
- 利用者の方において非常ベルが鳴った時に指示なしの状態を外に避難した。
(避難経路を無視した感じになってしまった。)
- 緊急連絡網による通報訓練は5分以内に全職員への連絡が取れた。